



第 8 1 回 渋川摂食嚥下研究会レポート

日時：令和 5 年 4 月 4 日（火）午後 7 時 00 分～

会場：渋川ほっとプラザ 4 階/WE B

講演Ⅰ：「重症心身障害児（者）の栄養管理について」

講師 渋川医療センター

小児科医長 井上 文孝 先生

講演Ⅱ：「重症心身障害児者病棟における栄養管理」

講師 渋川医療センター

病態栄養専門管理栄養士/NST 専門療法士 高橋 正弥 氏

今回は重症心身障害児（者）の栄養管理について、医師・管理栄養士の立場から、それぞれ講演いただきました。これまで 15 年近くこの研究会を実施してきておりますが、あまり取り上げてなかったテーマとのこと。しかしながら、この課題を知ることによって、高齢者や障害者へのヒントが得られるのではないかと思います。渋川にこういった施設があり、どういったことを行っているのか知ってもらう機会として、今回取り上げたとのことでした。さて、重症心身障害児者の栄養管理については、お二人とも言及されていましたが「個人差が大きいので、指標というものが適用しづらく、難しい。」とのことでした。渋川医療センターでは非常に手厚く NST（栄養サポートチーム）医療を行っている様子が紹介されました。課題解決には多職種連携が重要とのことでしたが、高齢者対応時にも通じるものがあるのではないのでしょうか。

参加者内訳

職種	参加人数
医師	5
歯科医師	6
薬剤師	1
保健師・看護師	13(3)
歯科衛生士	2
ST・OT・PT	6(2)
管理栄養士・栄養士	12(1)
介護支援専門員	9(6)
介護職員	1(1)
MSW・相談員	2
その他	4(1)
合計	61(14)

カッコ内=(うち Web 参加)

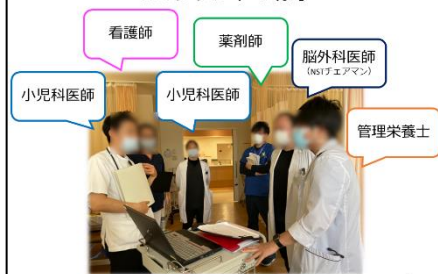


重症心身障害児（者）の 栄養における留意事項

- 必要栄養量の個性が高い
- 必要栄養量を摂取することがしばしば困難
- 栄養源を特定の経腸栄養剤に依存している
- 栄養摂取を他者に依存している

【講演資料より抜粋】

NSTラウンドの様子



終わりに

重症心身障害児・者は健康者と比較して、発育、体格、体力、基礎代謝が大きく異なることが報告されている。また、一般に重症心身障害児(者)は病態や病勢、重症度が異なるため、画一的な評価を行うことが難しいと言われている。



医師、看護師、薬剤師、管理栄養士をはじめ、
多職種連携による総合的かつ経時的な
栄養評価・栄養管理が重要であると考えらる。

【次回 第 82 回 渋川摂食嚥下研究会/在宅ケアネット合同講演会の予定】

開催について：6 月 7 日（水）午後 7 時～ プレヴェール渋川またはオンライン

演題「食を楽しむための においと嚥下の知識」

講師 東京大学医学部附属病院 摂食嚥下センター

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 准教授 上羽 瑠美 先生

※講師はオンラインで参加します。